

## 米国 鉱工業・製造業生産が予想外の減少（15年5月鉱工業生産）

発表日：2015年6月16日（火）

～4-6月も生産は低迷～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)						設備稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連			
14/10	▲0.0	(+4.3)	+0.2	▲1.1	+0.4	+0.9	+0.1	▲0.5	+79.2	+78.2	+0.3
14/11	+1.1	(+4.8)	+1.2	▲0.5	+3.6	+0.0	+1.2	+6.0	+79.8	+79.0	+0.3
14/12	+0.0	(+4.7)	▲0.1	+3.2	▲5.0	▲0.4	▲0.0	▲1.2	+79.6	+78.8	+0.3
15/01	▲0.4	(+4.5)	▲0.7	▲1.4	+3.3	▲0.6	▲0.7	▲1.0	+79.1	+78.2	+0.1
15/02	▲0.0	(+3.5)	▲0.2	▲2.1	+4.9	▲0.6	▲0.3	▲3.0	+79.0	+77.9	+0.2
15/03	+0.0	(+2.6)	+0.3	▲0.3	▲1.8	▲0.2	+0.3	+4.0	+78.8	+78.1	+0.2
15/04	▲0.5	(+2.0)	+0.1	▲1.3	▲3.7	+0.4	+0.0	+2.0	+78.3	+78.0	+0.2
15/05	▲0.2	(+1.4)	▲0.2	▲0.3	+0.2	+0.4	▲0.1	+1.7	+78.1	+77.8	+0.1

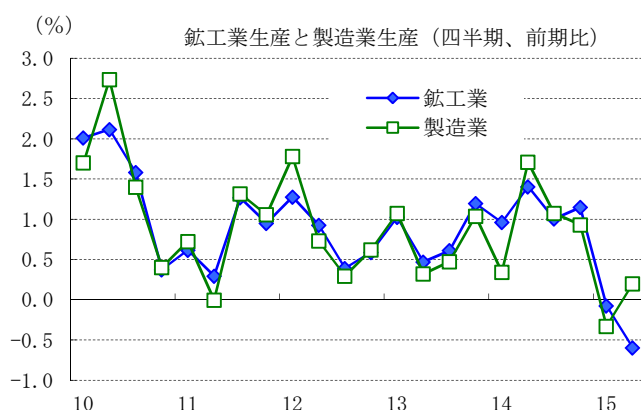
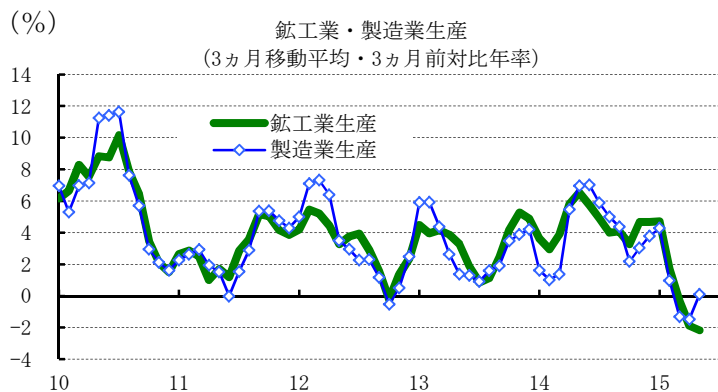
### 5月の鉱工業生産は前月比▲0.2%と2ヵ月連続の減少

15年5月の鉱工業生産は、前月比▲0.2%と市場予想の同+0.2%に反して2ヵ月連続の減少となった（2、3、4月合計0.2%ポイント上方改定）。公益が4月の気温の上昇を受け大幅に落ち込んだ反動もあり、前月比+0.2%とプラスに転じたものの、製造業が同▲0.2%と減少に転じたほか、鉱業が石油掘削などの落ち込みによって同▲0.3%とマイナスとなった。製造業生産では、港湾ストの影響を受け落ち込んでいたハイテクや自動車・同部品が増加したものの、石油・石炭、食品・飲料・タバコ、航空機、化学等が減少した。需要の堅調な自動車を除く製造業生産は前月比▲0.3%と減少しており、ドル高や在庫の積み上がりなどを背景に、自動車以外では調整色を強めている。なお、稼働率をみると、鉱工業が78.1%、製造業が77.8%と前月比でともに低下した。

### 鉱工業生産は、3ヵ月前対比、前期比でマイナス幅を拡大も製造業はプラス回復

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が▲2.2%（前月▲1.9%）とマイナス幅を拡大した。一方、製造業生産が+0.1%（前月▲1.5%）と小幅プラスとなり、拡大モメンタムを回復しつつあるが鈍い。

四半期では、4、5月平均の鉱工業生産は1-3月期比年率▲2.4%と1-3月期の前期比年率▲0.3%から減少幅を拡大した。生産活動が15年4-6月期も停滞が続いていることを示している。ただし、製造業は自動車の拡大等により1-3月期年率比+0.8%（1-3月期前期比年率▲1.3%）とプラスに転じており、回復の兆しがみられる。



(出所) FRB

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。